

斜里町国民健康保険病院改革プランの点検・評価(平成20～22年度実績、平成23年度見込)

数値目標の比較

項目	20年度			21年度			22年度			23年度			点検	評価
	計画	実績	増減	計画	実績	増減	計画	実績	増減	計画	見込	増減		
経常収支比率	97.9%	100.7%	2.8%	97.1%	100.2%	3.1%	101.5%	103.2%	1.7%	101.8%	95.6%	-6.2%	要綱に基づく一般会計繰入金の増により、20～22年度は計画を上回ることができたが、23年度は医業収益の大幅な減収が見込まれることにより、計画値を下回る見込となっている。	内科常勤医師不足による医業収益減収の影響が大きいいため、早急に内科常勤医師の採用確保による収入の確保に努めるとともに、更なる経費の節減により経常収支比率の改善を図ること。
職員給与比率	65.0%	63.3%	-1.7%	66.9%	69.1%	2.2%	59.5%	71.2%	11.7%	59.3%	63.5%	4.2%	20年度は計画を下回ったが、21～22年度は内科常勤医師不足による医業収益の落ち込みにより計画値を上回り、23年度も医業収益の回復が見込めず計画値を上回ることが見込まれる。	内科常勤医師不足による医業収益減収の影響が大きいいため、早急に内科常勤医師の採用確保による収入の確保に努め、適正な人員管理による人件費の総額を抑制し、職員給与比率の改善を図ること。
医業収支比率	80.5%	82.3%	1.8%	79.9%	75.9%	-4.0%	88.6%	75.6%	-13.0%	88.7%	78.3%	-10.4%	20年度は計画を上回ったが、21～22年度は内科常勤医師不足による医業収益の落ち込みにより計画値を下回り、23年度も医業収益の回復が見込めず計画値を下回ることが見込まれる。	内科常勤医師不足による医業収益減収の影響が大きいいため、早急に内科常勤医師の採用確保による医業収入の確保に努めるとともに、更なる医業経費の節減により医業収支比率の改善を図ること。
病床利用率	一般	/	89.9%	/	78.9%	/	83.0%	84.5%	/	85.0%	/	/	20年度は計画を上回ることができたが、21～22年度は内科常勤医師不足による新規入院患者の受入制限等により計画値を下回り、23年度も内科常勤医師不足により計画値を下回ることが見込まれる。	病床利用率の改善は病院経営の根幹をなすことから、早急な内科常勤医師の採用確保により病床利用率の改善に努めること。
	介護	/	66.9%	/	62.0%	/	39.0%	/	/	/	/	/		
	計	78.5%	79.3%	0.8%	80.0%	71.2%	-8.8%	83.0%	63.6%	-19.4%	85.0%	82.6%		
平均在院日数 (一般病床のみ)	60.0	53.7	-6.3	60.0	53.3	-6.7	60.0	33.5	-26.5	60.0	35.7	-24.3	計画値を下回っている。	平均在院日数は病院病床管理の重要な指標の一つであり、患者動向を見定めながら入院患者の確保に努めること。
救急車による患者数	402	383	-19	400	387	-13	400	352	-48	400	400	0	計画値を下回っている。	救急医療に関する市民の関心は高くなっているものと思われるが、引き続き救急車の適正な利用についてチラシ等により住民周知を図ること。
年間手術件数	43	44	1	50	24	-26	55	38	-17	60	38	-22	20年度は計画どおりとなったが、21～22年度は計画値を下回り、23年度も下回るものと見込まれる。	手術件数の増は入院患者の増に直結し、医業収益の増収となることから引き続き計画値の達成に向け努力すること。
経営形態	指定管理者制度移行への検討			指定管理者制度移行への検討			直営維持(プラン変更)			直営維持(プラン変更)				

【参考】

経常収支比率：計上収益÷計上費用×100

職員給与比率：職員給与費÷医業収益×100

医業収支比率：医業収益÷医業費用×100